

編集後記

最初に本号にはデザイン学科の高梨隆雄教授から「以敦煌飛天為基準美学的設計方法」と題する中国語による論文を投稿いただいたのであるが、印刷上の対応ができず掲載を見合わせた。高梨教授ならびに論文の査読をお願いした審査員にお詫び申し上げる。

本紀要は投稿された論文・作品を専門家による審査を経て掲載しているが、この審査制度には難しい点が三つある。

まず第一は審査の依頼に関する困難である。学内に適切な審査員を見だし難い場合、学外の方に審査をお願いしているが、これが思うほど容易ではない。例えばある主題の論文について、この人に依頼するのが最もよいと分かっているが、本学と何の関係もない方をお願いするのはばかれる。そこでつまるところ審査員は紀要委員の知人の範囲内とならざるをえないわけであるが、これには当然ながら限度があり、専門領域から多少はずれても無理をお願いするようなこともでてくる。あるいはこちらでお願いした方が、また別の方に回すというようなことも起き、結果として大変ご迷惑をお掛けしている。

第二は審査の基準に関するもので、これは困難というよりも、審査に当たる側の苦労といった方がよい。一応、学会誌に採択される程度という基準を設けてはあるが、学会といっても実に多様な学会があり、それぞれの学術水準は一樣ではない。そこでおおむね妥当な審査が行うはれているとしてよいものの、手厳しい審査や逆に甘い審査も入り交じることになる。審査員が投稿者を知っている場合はその審査に何らかのバイアスが入ることも考えられる。

第三にこの審査結果を投稿者に伝えて、手直しの必要な場合はそれをお願いしているのだが、大方は修正意見に従っていただいているけれども、時には審査員と対立するようなトラブルもないわけではない。

このようなことから、現行の審査制度の意義を認めながらも、紀要委員の間ではいわゆるアンデパンダン展のようにバリア・フリーにして、論文・作品の評価は読者に任せたほうがよいのではないかとの意見もだされ、目下議論をしているところである。

本号の表紙を飾る作品は細江英公教授にお願いした。快諾されて素敵な作品と、長文の解説を寄せられた同教授に感謝申し上げます。

平成13年 3 月

紀要委員会 委員長 利 光 功

芸術世界

東京工芸大学芸術学部紀要 Vol. 7

2001年 3 月31日 発行

編 集 東京工芸大学芸術学部
紀要委員会

発 行 東京工芸大学芸術学部
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5
Tel. (03) 3372-1321
Fax. (03) 3372-1330

印 刷 有限会社 啓文堂 松本印刷
東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12